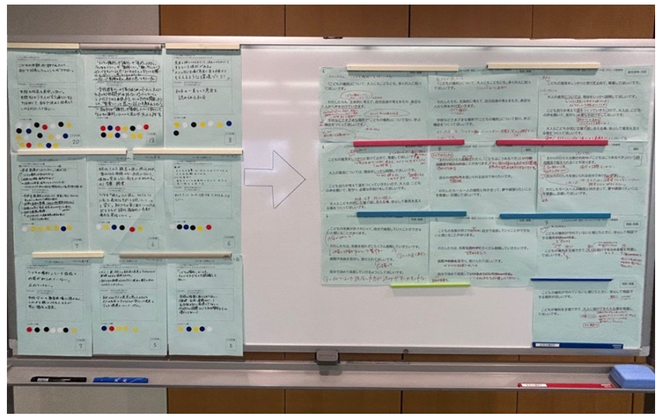
こどもの権利推進リーダーと文京区議会議員との意見交換会の実施結果について

実施日　令和7年8月20日（水）　10時から12時10分まで
会場　　文京区会議場、区議会第一委員会室

　こどもの権利推進リーダーから区議会議員と対話してみたいとの声があり、7月11日・15日に実施した第5回リーダー会議にて、（仮称）こどもの権利に関する条例の前文案がまとまったことを受けて、夏休み期間中に、リーダーと区議会議員との意見交換会を開催した。



1　参加者
　こどもの権利推進リーダー　19人
　文京区議会議員　　文教委員会委員及び子ども・子育て支援調査特別委員会委員　　18人

2　内容
　第一部　　区議会のしくみの説明（10時から10時30分）
　　文京区議会議場にて、文京区議会事務局の職員から説明

　第二部　　文京区議会議員との意見交換会（10時30分から12時10分）
　　1　開会
　　2　議長挨拶
　　3　出席者自己紹介　（リーダーはニックネームと学年で自己紹介）
　　4　リーダーより前文案の紹介　（リーダー10人から発表）
　　5　区議会議員からご意見等
　　6　閉会　（リーダーの代表1人が挨拶）

3　当日の様子
　リーダーからは、前文案の作成に当たり検討した内容について紹介されたほか、リーダー会議の経験をつうじてそれぞれに成長したことなどについて発表があった。
　区議会議員からは、前文の内容についての意見のほか、親の立場からの発言や、リーダーたちの今後の活動へのエールやアドバイスをいただいた。

区議会議員との意見交換会　概要

リーダーの主な発表内容

素案の説明

・ 前文①については、こどもの権利をみんなに知ってもらうため、大人にそういった機会を作ってもらうなどの受動的な感じではなく、自分たちでも、積極的に広めていこうと考えて作成した。

・ 前文②については、大人とこどものどちらかが一方的に意見を押し付けることはよくない、大人とこどもがちゃんと話し合えるようにしていきたいと考えた。

・ 前文④でこだわったのは、「挑戦や失敗を見守り、受け入れて応援してほしい」という言葉。最初は「見守って欲しい」という言葉だけだったが、見守ってもらうだけでは、そこで歩みが止まってしまうと思う。だから大人に受け入れてもらったり、応援してもらったり、環境を作ってもらう、こどもだけで何もかも進めようとするのではない、という意味を持たせた。

・ 前文⑤について、当初は、「信頼できる人」という部分が「信頼できる大人」という表現だったが、助けを求める相手は必ずしも大人ではないのではないかという意見が出て、このような表現になった。

・ 前文⑤の「秘密が守られ安心して相談できる場所」については、何か堅苦しくなくても、同年代と気軽に関われたり、気軽に話せるようなコミュニティでもいいのかなという話も出た。

リーダー会議の感想

・ 学校も学年も超えて、良いものを作ろうという雰囲気で、みんなすごく優しく接してくれてとても嬉しかった。意見を発言するときにも、最初はすごく緊張したが、「リーダーの掟」にもあるように、みんな意見を遮らず聞いてくれて、とても楽しく安心して過ごすことができた。

・ リーダー会議を通してこどもの権利について深く学ぶことができた。

・ こどもたちの声が本当に条例に反映され、すごい素晴らしいことだと思う。何もしなかったら、自分の考えや理想を伝えられないし、世界が変わるのを待っているだけになるけれど、自分から動いていくことで、自分もその変化に関わりながら、世界が少しずつ本当に変わることを実感した。

・ 意見が絶え間なく出て、1 人では考えられないことでもみんなと考えられれば新たな意見がすごくたくさん生まれる機会が多くて、みんなの力を実感した。

・ 意見を発表する人、メモを取る人、進行する人など、ローテーションをしながら会議を進めていったのでいろいろな役割を学んで、力をつけることができた。

・ 年上の先輩と話す機会があまりなかったからすごい緊張したが、話しかけてくれたり、私の意見に対して確かにとか、いいねっなどの優しい言葉をかけてくれてすごい嬉しかった。

・ 条例の前文を考えるという難しい議題に取り組んだことで、こどもの権利を知ることができたり、新たな視点を得ることができた。

・ 学校や学年の垣根を越えていろいろな人と話し合うことができて、文京区に関わってる中高生で作り上げていけたものなので、いろいろな人に伝えることができるかなと考える。

・ 今まで校則に疑問を持ったことがなかったが、校則にも不自然な部分があるということに驚いたのと同時に、その部分に対して安心して意見を言うためには、こどもの権利がとても重要なものであると改めて感じた。そして、当たり前にとらわれず疑問を持つことの大切さにも気づくことができた

・ 条文作成の活動では中学生から高校生までの幅広い年代で話し合い、多様な意見を出すことで互いの共通点や相違点を把握し、それらの点を尊重しながらよりよい形でまとめていくことができ、深い学びに繋がった。

・ 今後は、リーダーとしてこの活動を通して得られたこどもの権利についての知識や様々な学びを生かし、自分自身を高めていきたいと思う。

・ こどもの権利について考えたことで、普段当たり前に思っていることが、大人の方たちによってどのように守られているのかというのを実感することができた。

・ 住んでいる地域や学年によって様々な意見が出てきて、刺激をもらうことができた。今回のリーダー会議の参加を通して、これを私の周りの人や学校の人たちに伝えていくことで、もっと周りにこどもの権利について知ってほしいと思った。

・ 第一回リーダー会議で、大学教授の特別講演で「権利は、自分たちで守らなければいけない」と聴いたが、自分の意見を条例前文に反映するという今回の行動によって、ある意味初めて自分の権利を行使できている、民主主義に参画できていると実感した。

・ こどもをひらがなにする意味や、誰でも小学生でもわかるように言葉遣いに気をつけるとか、カバーできる事例として漏れがないように一般性を持った言葉を使うとか、そういうところがかなり議論されていたのが印象的だった。

・ 私は 18 歳で今年から選挙権を持ち、選挙に行くのはもちろんのこと、自ら周りの友達も含めて発信していくことも重要だなと感じた。

・ 初めは正解のないものに対して答えを探していたが、周りのリーダーを見ているうちに、もっと自由な発想でいいんだと大きな気づきを得た。

・ 自分 1 人で周りの意識を変えることはできないが、自分の意見を持って、会議でより良いものにしようと考え抜き、文京区で条約を作ることが、周りの意識を変えていく大きな一歩だと信じて活動している。

・ リーダー会議は、未体験に共感したり、自分にはなかった発想にはっとしたりして、実りある時間だった。その一方で、持ち寄られたたくさんの意見を尊重したいと思うあまり、まとめるのが大変でもあった。

・ リーダー会議で、資料や動画を拝見する中で、自分が想像している以上に多くの場面でこどもの権利が保障されていることを知った。

・ 話し合いの際に、みんなが肯定してくれたことで意見を出しやすくなったと感じる。共感してもらえる、聞いてもらえるという安心感があったからこそ、本音を言えるんだと学び、それを大切にしていきたいと思った。

・ これまでは、大人は聞いてくれないという思い込みを持っていたが、実は自分の伝え方次第で大人の受け止め方も変わるのではないかという気づきを得た。

・ 子どもからの視点では「なんでこうなんだろう」と思いもあるが、大人が見たらどうなるんだろう、それを親子の問題だとしたら親の考えはどうなんだろう、その次は社会全体でそう思うのは何でだろうと、そういうふうに考え方が広まったのが、リーダー会議で得た一番大きなものだなと思っていて、その中でも、やっぱり大人の協力はありがたいなと強く思った。

参加議員の主な意見、感想

・　文京区議会は、皆さんの取り組みを全面的に応援している。皆さんの想いや願いが、文京区の未来にしっかりと根を張っていくことを心から期待している。

・　前文には皆さん１人１人の思いや経験が本当にまっすぐに込められていると感じ、うなずいたり、はっとさせられたり、温かい気持ちになったり、とてもたくさんのことを考えさせられた。

・　こどもの権利をただ守ってくださいとお願いするのではなくて、自分からも動いて周りに伝えていこうとする前向きな姿勢が本当に素敵に感じた。

・　こどもが社会の一員として考え、声を上げ、行動しているということを大人にもしっかり伝えてくれるメッセージになっている。

・　この条例前文は、頭の中からアウトプットされた意見を、実際に手を動かして練り上げることによって出来上がった「作品」であり、それを成し遂げた皆さんに敬意を表したい。さらに、自分の手元にあることから始めて、議論を積み重ね、そして手続きを重ねていくこのプロセスが、自由で民主的な政治そのものであることを知ってほしい。

・　大人にどのように関わってほしいかというメッセージがはっきりと表れており、本当に私達大人が真摯に受け止めるべき内容だと感じた。

・ こどもの権利について学び、広める機会の創出や信頼できる人に助けてもらえる場所の提供など、区が主体となって取り組むべき課題を具体的に明確に示している。

・ 前文案について、非常にスーッと入ってきた。曖昧な表現が使われていないで、具体的に書かれているというところが非常にわかりやすい。こどもそのものの顔が見えると感じた。

・ こどもの権利について明文化するのは非常に大事なことである。

・ もう大人だけの社会では面白くない。やっぱり皆さんの声を出していただいて、反映していくので、これからもぜひ頑張ってほしい。

・ この条例が大人自らも変わるきっかけになり、こどもたちがさらに幸せになるきっかけになるといいと願う。

・ 安心して相談できる場は、大人が考えると弁護士とか学識経験者とか教員などになるが、今回前文で求められているような意見に寄り添った場が本当に必要だと実感した。

・ 日本は、国連子どもの権利委員会から、競争社会が改善されていないということが、何度も勧告されているが、文京区や各自治体からこういう条例ができて、国の姿勢が変えられていくことを切に願っている。

・　これまで、本当に時間がなくなるまでたくさん議論し、またそれを合意形成するために取捨選択したり、意見を諦めてもらったり、本当に苦労がたくさんあったのではないかと思う。それを乗り越えた皆さんは、すごくて、キラキラして見える。

・　主役はこどもである皆さん自身、そんな気持ちでこれからも文京区に関わってほしい。自分たちが自分たちの未来を作っている、自分たちがこの街の主役なんだと思える方が絶対に楽しいと思う。

・　条例を作ることでみんなの意識を変えていく第一歩になったと話した方がいた。これは、すごい成功体験、良い体験で、これがもっと広がれば、こどもが人権の主体であるという社会にもっと進んでいくと思う。

・　親は皆さんがやってみたいことを阻害しているのではなく、皆さんを守る立場なので、経験からやめておいた方がいいと思うことについて、「やめておきなさい」と言っている。それが一方的な意見の押し付けになってしまっていたり、親子のコミュニケーションが取れていないことにより、「失敗が許されない状況なんじゃないか」と皆さんが感じてしまっているのではと思った。自分のこどもにもちゃんと向き合おうと思った。

・　こどものために良かれと思って、またそれが当たり前だと思ってやっていたことが多かったので、大人こそ気づいて改めるべきだと思った。私自身も今すぐ変えていこうと決意した。

・　大人は基本的にこどもを守るものだと思っており、守る方法を先に考えるため、「これをやったら危ない、あれをやったら危ない」と先に言ってしまう。こどもの権利を広めていくには、大人の意識を変えなくてはならないし、こどもの皆さんも意識を変えて大人と接する必要がある。それが当たり前の世の中になっていくのが一番いいと思う。条例の前文が文京区にとって一つの指針になればいい。

・　できる限りこどもが納得できるような説明をするように努めていきたいと思う。

・　リーダーとして、幼児や小学生など、まだうまく言葉にできないこどもたちの意見や権利についても、ぜひ意識してほしい。

・　障害を持つこどもの保護者に皆さんの取組を紹介したところ、「実現したら、何てすごい文京区になるんだろう」と期待しているが、障害を持つこどもたちには程遠い理想のように感じるというお話を聞いた。皆さんにはいろんな状況で生きているこどもたちの立場を意識して、取組を進めていただきたい。

・　これまでの 5 回のリーダー会議を通じて、人間関係や友達もできたと思う。そういう出会いを大切にして、この会議を皆さんの人生の糧にしてもらいたい。

・　これからさらに活動を進めていくには、なかなか理解をしてくれない方がいたり、進んでいかない壁にぶち当たると思う。忍耐力やこちらの気持ちがすごく大事になり、こどもの権利を広めていこうという最初の誓いを忘れずに、何度も何度も話をしたり、対立をあおらないように進めていってほしい。

参加議員からの質問と回答

Ｑ　今回リーダー会議に参加したことで、次に何か取り組みたいと思ったことはあるか？

Ａ　私がリーダー会議で心がけてきたのは、ファーストペンギンとして動くことで、私が最初に何かを言うことで、皆さん結構いい意見が出揃ったので、これからも問題を解決をする上でやっぱり先頭に立って突き進んでいける人間になりたいなと思った。

Ｑ　おせっかいな大人に対してはどのような助言をすればいいと思うか？

Ａ　おせっかいな人は、心配している気持ちよりも先に行動が出てしまっていると思うので、どうしてそのおせっかいをしたいのか、どういうところが不安だと思っているのかをこどもに伝えてくれれば、こどもの方も「こうするから心配しないで安心して見ていて」というようにできると思う。まずは何を不安に思っているのかをこどもに説明してほしい。

Ｑ　前文③で「のびしろ」を「可能性」という言葉に変更したのはなぜか？

Ａ　会議では、「のびしろ」という表現はわかりにくいという意見が多かった。

「のびしろ」は既にあるものを１から２にするという感じがするが、「可能性」は０を１に変える意味も含むと感じられる。

Ｑ　こどもの権利を広めていく活動に既に取り組んでいる人の感想を聞きたい。

Ａ　こどもの権利について伝えていくときは、広める人がそもそも身近にいないと知る機会もないし、興味を持ってもらうには、広げてくれる人が仲のいい人でないと、自分事として捉えてもらえないのではと実感した。生徒会でイベントを行ったが、そのような考える場を提供すれば、皆さん自分事として捉えて意見を出し合ってくれるので、そういう場をたくさん設けていきたい。